

氏名	瀬崎 悟之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4094 号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Thrombospondin-1 is Induced in Rat Myocardial Infarction and its Induction is Accelerated by Ischemia/Reperfusion (トロンボスポンジン1はラット実験的心筋梗塞において誘導され、その誘導は虚血/再灌流により増強される)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 成瀬 恵治 助教授 伊達 洋至

学位論文内容の要旨

トロンボスポンジン1 (TSP-1)は炎症反応を調節する役割を担うターンオーバーの速い多機能細胞外マトリックス糖蛋白である。我々は炎症反応が関与する心筋梗塞および虚血/再灌流における TSP-1 の役割を研究するため TSP-1 の発現をノーザンブロット法、*in situ* ハイブリダイゼーション法、定量的 PCR 法などで検討した。ノーザンブロット法では冠動脈結紮 6,12 時間後に mRNA の強い発現を認め、*in situ* ハイブリダイゼーション法では梗塞境界域の浸潤細胞に発現を認めた。ウエスタンブロット法では TSP-1 蛋白の一過性の誘導が認められた。定量的 PCR 法によって梗塞心に比べ虚血/再灌流心では mRNA 発現誘導の増強を認めた。また、ELISA 法にて TSP-1 はヒト末梢血単核球からの炎症性サイトカイン放出を容量依存的に増強させた。以上より TSP-1 は、心筋梗塞において炎症に関連した役割を担っていることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、心筋梗塞後における多機能細胞外マトリックス糖蛋白であるトロンボスポンジン1 (TSP-1) の発現について検討したものである。ラット実験的心筋梗塞モデルを用いて TSP-1 の発現を経時的に検討した結果、TSP-1 は梗塞早期に梗塞境界域の浸潤細胞に発現が認められ、その誘導は虚血・再灌流により増強されることを明らかにした。本研究は、従来十分確立されていなかった急性心筋梗塞部における TSP-1 の発現に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。